

令和5年度 財政の動向及び財政方針

本年度の地方財政は、地方税が過去最高を見込む中、地方交付税等の一般財源総額について、前年度を上回る額が確保されたところである。

地方財政計画において、歳出面では、地域のデジタル化や脱炭素化の推進等に対応するために必要な経費を充実して計上するとともに、地方団体が住民のニーズに的確に応えつつ、行政サービスを安定的に提供できるよう、社会保障関係費の増加を適切に反映した計上等を行う一方、国の取組と基調を合わせた歳出改革を行うこととし、歳入面では、地方の安定的な財政運営に必要となる地方の一般財源総額について、令和4年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として、引き続き生ずることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補填措置を講ずることとしている。

本市においては、歳入面では、固定資産税等の市税は増収が見込まれるものの、歳出面では社会保障関係経費や都市基盤整備、防災・減災対策など、本市を取り巻く喫緊の課題に対応するための施策・事業に多額の費用が見込まれることから、厳しい財政状況が続くものと予想される。

これらのことを踏まえ、予算編成に当たっては、事務事業の峻別・見直しを行うなど創意工夫を重ねる中で、財政の健全性に意を用いつつ、第六次鹿児島市総合計画に掲げる「信頼とやさしさのある共創のまち」、「自然と都市が調和したうるおいのあるまち」、「魅力にあふれ人が集う活力あるまち」、「自分らしく健やかに暮らせる安心安全なまち」、「豊かな個性を育み未来を拓く誇りあるまち」、「質の高い暮らしを支える快適なまち」の6つの基本目標に全力で取り組むこととし、『“彩り”豊かなまちの創造に挑戦する積極予算』とした。

デジタル技術の進展等に伴い、企業や若者の地方への関心が高まっていることや、インバウンド需要の回復が見込まれている中、本年度は51年ぶりのかごしま国体や、初となる全国障害者スポーツ大会、全国高等学校総合文化祭が開催され、多くの方々に鹿児島の魅力を堪能していただく絶好の機会となることから、これらを本市が発展するための追い風としてしっかりつかみ、まちづくりのエネルギーに変換し、さらなる成長へとつなげていく。